

大阪学院大学経済学部

情報経済論II(平成16年度前期)期末テスト問題(注意、形式のみ)

2004年7月21日

鬼木 甫

下記(A) - (D)の4個の設問から**2問**(各50点計100点満点)あるいは**1問**(85点満点)を選べ。答案冒頭に、**選んだ設問の個数とその記号**を明記せよ(末尾例参照)。選んだ設問について、設問中のかぎカッコ(『』)中の単語を標題とし、かつ設問中の他の単語をすべて含む「記述」(前後関連を持つ数個の文章から成る短いエッセイ)を作れ。作成した「記述」中で、設問で指定された単語を○でかこむこと(ただし○をつけるのは、各問への答案中で、各単語につき1カ所だけでよい)。

- (A)『いろは』 にほへと、ちりぬるを、わかよ、たれそ、つねならむ
(B)
(C)
(D)

加投票について：

これまで受け取った加投票(出席票各1%を含む)は、テスト答案の空白に添付すること。その際、添付には持参の「のり」あるいは「セロテープ」を使い、かつ加投票パーセントの合計を「答案1ページ目の右下部」に○で囲んで書いておくこと(故意・過失による計算誤りは、マイナス加点とするので充分注意されたい)。また上記に反する添付は、受け取らないことがあるので注意されたい。

次ページ以下の注意等は、試験当日の**問題用紙には記載されていない**ので注意されたい(本用紙を試験当日に持参するとよい)。

注意：

I. 採点規準について：

1. 採点は、「記述内容のまとまり、豊富さ、深さ」によって行う。
2. 答案文章としては、自身で書き下したオリジナル文章の場合を高く評価する。
3. それぞれの単語を含む文章が前後関連なく並んでいる場合（下記の例(a)）は低く採点し、前後のつながりを明示している場合（下記の例(b)）は高く採点する。

例(a)（低採点）

哺乳類は学習によって生後に情報を取り込むことができる。コンピュータは、ハードウェアにソフトウェアを入れ込んで使用する。

例(b)（高採点）

哺乳類は学習によって生後に情報を取り込むことができる。同様にコンピュータは、ハードウェアにソフトウェアを入れ込んで使用する。つまり哺乳類の学習情報がコンピュータ・ソフトに対応している。

II. その他：

1. 持込無制限とする（コンピュータも可、下記 III. を参照）。
2. 答案中に自他の資料を引用する（書き写す、貼付ける）ことは差支えないが、1回の引用が1行を超える際には、下記(a)(b)にしたがって引用元を明らかにすること。1行を超える無断引用があった場合、引用元の如何を問わず、答案無効となるので注意すること。
 - (a) ノート、教科書（テキスト）、教室配付資料、WWW入手・配付資料（本講義教材として指定の分）の場合、引用部分の前後に【 】（角カッコ）をつけて囲むだけでよい。
 - (b) 上記以外の資料からの引用の場合、引用部分をその前後に< >（不等号カッコ）をつけて囲み、引用元（著者名、書物・雑誌等名、発行者、刊行年月日、引用ページ番号など）を明記すること。つまり、引用全体を<引用文書、（著者名、書物名等、・・・、引用ページ番号）>の形にする。

III. 磁気フロッピーによるテスト答案の提出について

試験場にコンピュータ（ノート・パソコンなど）を持ち込み、答案作成のために参照・使用することは差支えない。ただし、コンピュータを使う発信は禁止する。また、騒音の大きいものは避けること（騒音のため、座席の移動を命じることがある）。

答案（の一部）を、コンピュータによって作成したフロッピーによって提出してもよい

が、この場合は下記に留意すること。

1. 答案用紙上とフロッピーの各項目冒頭に、同一の番号・記号等を書き込み、フロッピー内容のどの部分が答案用紙上のどの部分に対応するかを明らかにしておくこと。答案のすべてをフロッピーに書きこむときは、答案用紙上に「別添フロッピー参照」と書いておくこと。
2. フロッピー内には、答案（の一部）以外の情報を書き込まない（残しておかない）こと。
3. フロッピー形式による答案（引用を含む）の長さは、最大限 10,000 字（A4 で 40 字 × 25 行 × 10 枚）程度までとすること。
4. フロッピー規格は、IBM 型 PC(DOS/V 形式)の Windows 用 3.5 インチ 1.4MB のもの（通常最も多く使われている形式）に限る。また、フロッピー内のファイル形式は、テキスト（メモ帳など、txt）、MSワード（doc）、一太郎（jtd）、アドビ・アクロバット（pdf）のいずれかに限る。
5. フロッピーにはラベルを貼り、これに「情報経済論（IあるいはII）答案」に加え、学籍番号と氏名を記入し、答案とともに提出すること。

答案冒頭形式の例：

(解答用紙)

2 問選択の場合 (100点満点)

1 問選択の場合 (85点満点)

2 問選択：(A) と (C)

(A) 『 (標題) 』
.
. (答案エッセイ) .
.
.

(C) 『 (標題) 』
.
. (答案エッセイ) .
.
.

1 問選択：(A)

(A) 『 (標題) 』
.
.
. (答案エッセイ) .
.
.
.

- 1 問選択、2 問選択を指定していない場合、実際の記述にしたがってそのいずれであるかを定める。
- 2 問選択と指定したのに 1 問だけにしか答えていない場合、**50 点満点で採点**するので注意すること。
- 1 問選択と指定して 2 問に答えている場合、第 1 番目の答を 85 点満点で採点し、第 2 番目の答は無視する。

大阪学院大学経済学部

情報経済論II(平成16年度前期)期末テスト問題

2003年7月21日

鬼木 甫

下記(A) - (D)の4個の設問から**2問**(各50点計100点満点)あるいは**1問**(85点満点)を選べ。答案冒頭に、**選んだ設問の個数とその記号**を明記せよ(末尾例参照)。選んだ設問について、設問中のかぎカッコ(『』)中の単語を標題とし、かつ設問中の他の単語をすべて含む「記述」(前後関連を持つ数個の文章から成る短いエッセイ)を作れ。作成した「記述」中で、設問で指定された単語を○でかこむこと(ただし○をつけるのは、各問への答案中で、各単語につき1カ所だけでよい)。

- (A)『アナログ・デジタル情報』、情報処理、量子化誤差、入力と出力、二進法
- (B)『パーソナル・コンピュータ産業』、日米比較、互換機メーカー、OS(オペレーティング・システム、基本ソフト)、自然独占
- (C)『デジタル放送』、コマーシャル、蓄積型放送、新規参入と競争、コピー・ワンス
- (D)『インターネット』、IPプラットホーム、モジュール構造、分業の利益、電子メール

加点点について：

これまで受け取った加点点(出席票各1%を含む)は、テスト答案の空白に添付すること。その際、添付には持参の「のり」あるいは「セロテープ」を使い、かつ加点点パーセントの合計を「答案1ページ目の右下部」に○で囲んで書いておくこと(故意・過失による計算誤りは、マイナス加点点とするので充分注意されたい)。また上記に反する添付は、受け取らないことがあるので注意されたい。

大阪学院大学経済学部

情報経済論II(平成16年度前期)追試・再試問題

鬼木 甫

下記(A) - (D)の4個の設問から**2問**(各50点計100点満点)あるいは**1問**(85点満点)を選べ。答案冒頭に、**選んだ設問の個数とその記号**を明記せよ(末尾例参照)。選んだ設問について、設問中のかぎカッコ(『』)中の単語を標題とし、かつ設問中の他の単語をすべて含む「記述」(前後関連を持つ数個の文章から成る短いエッセイ)を作れ。作成した「記述」中で、設問で指定された単語を○でかこむこと(ただし○をつけるのは、各問への答案中で、各単語につき1カ所だけでよい)。

- (A)『アナログ・デジタル情報』、情報処理、量子化誤差、入力と出力、二進法
- (B)『パーソナル・コンピュータ産業』、日米比較、互換機メーカー、OS(オペレーティング・システム、基本ソフト)、自然独占
- (C)『デジタル放送』、コマーシャル、蓄積型放送、新規参入と競争、コピー・ワンス
- (D)『インターネット』、IPプラットフォーム、モジュール構造、分業の利益、電子メール